

日本橋遊歩

1. 日本橋

慶長6年(1601年)徳川家康は全国支配の為、江戸を中心とする五街道(東海道、中山道、日光街道、奥州街道、甲州街道)の整備を始めた。その起点として慶長8年2月22日(1603年)徳川家康が征夷大將軍に任じられてすぐさま日本橋を建造し、そこを起点として人々が距離の目安となるように一里塚を約4km毎に造っていった。

またそれに伴い町役場としての宿場も整備し、東海道では日本橋に近い順に品川宿、川崎宿、神奈川宿、中山道では板橋宿、蔵宿、浦和宿、日光街道と奥州街道では千住宿、草加宿、越谷宿となり、宇都宮宿から分かれる事になる。そして甲州街道は、内藤新宿、高井戸宿、布田五宿となっている。

徳川幕府成立後、幕府は江戸に参勤する大名にはそれぞれ上屋敷や領地を与えたので移封^{いほう}や開封^{かいほう}を恐れる諸藩の大名は自ら江戸に参勤し、幕府に対し忠誠心を見せる為に人質と言う意味で正室と子供(主に後継ぎ)を江戸に住まわせるようになった。そして大名が自藩に帰っている間も、有能な家臣が幕府と藩との連絡役としての留守居及び補佐に当てられたので上屋敷、中屋敷、下屋敷の警護の要員等を含めると数百から数千人に及び、この事が諸藩の財政を圧迫するようになった。

1835年(寛永12年)3代目將軍徳川家光が武家諸法度を改定し、参勤交代の義務化を行ったのだが皮肉なことにこの参勤交



(日本橋の復元模型)。



(下から見る日本橋復元模型)。



(上に首都高が走っている現在の日本橋)。

代が、各街道の整備や、宿場町の発展に大きく寄与する事になった。

この参勤交代の義務化によって、江戸には多くの武家屋敷が建ち、商人、町人もこの地に集まり、世界的に見ても一、二を争う大都市を形成していった。

その中でも日本橋が最も早くから開けていった。それ故、日本橋は日本で初めての本格的な町であると言える。



(日本国道路元標)。



(寛永時代、1624年～1644年の江戸城周辺の地図)。



(寛永時代の江戸の商業地の模型)

2. 日本銀行

明治14年(1881年)日本橋本石町に創設された日本銀行は日本の中央銀行であり経済の要となっていますがその建物もクラシックな趣があり、是非立ち寄ってみたい所でもあります。余談として日本銀行を上空から見ると『円』の形になっております。



(日本銀行本店)

2. 東京証券取引所



(東京証券取引所)

日本橋兜町2丁目1番地にある東京証券取引所は弊社から徒歩約3分の所にあります。元々萱の生い茂る茅場町の近くなので地盤が軟らかく、昔の工法では高いビルが建てづらく、ニューヨークのウォール・ストリートにあるニューヨーク証券取引所に比べればなんと小ぶりなことか。昭和24年(1949年)設立され、幾多の事件を起こしながら現在に至っておりますが、立ち合いもなくなり、ひっそりとした、佇まいです。

4. コレド日本橋、室町

元々有名百貨店白木屋が在ったビルです。ここは寛文2年8月(1662年)、近江、長浜の材木商、大村彦太郎が小間物店、白木屋を創業したとされています。寛文5年には、現在のコレド日本橋に移転し、呉服に手を広げて、江戸3大呉服店として越後屋、大丸呉服店と共に名を博しました。また、日本女性がパンツを穿くきっかけになった場所でもあります。この白木屋が昭和7年12月16日(1932年)、火災になった時に女性が和服の下に何も着けていなかったのが、ロープや衣類をつないでロープ代わりにして降りる際に、裾を気にして降りる手を放して死んだり、飛び降りる事が出来なかったそうです。これは当時のズロースを売らんがためにアパレル業界がそのような噂を広げたのかも知れません。



(コレド日本橋)

また昭和21年から22年にかけて、3階にソニーの前身の東京通信工業が創業した所でもありました。

昭和24年(1949年)、白木屋は株の仕手戦で有名な横井英樹らによって買収されそうになりましたが、東急の五島慶太によって収拾され、後に東急日本橋店となりました。その後三井不動産と東急不動産が開発を手掛け、出来たのがコレド日本橋です。またハワイで有名なアラモアナセンターの創業も白木屋によるものです。

有名テナントが入る総合オフィスビルですが、値段が高く、しかも全館禁煙となっている為、愛煙家の私にとってはとても敷居の高い場所です。

日本橋では一等地の営団地下鉄の銀座線と東西線が交差する日本橋駅の真上、中央通りと永代通りの日本橋交差点に聳えるこのビルのデザイン等、まさにハイソの人が行くにはぴったりの場所と言えましょう。

コレド室町はコレド日本橋と同様に日本橋のランドマークになっております。



(コレド室町全景)



(コレド室町商業階)

5. 日本橋三越



(日本橋三越)

延宝元年(1673年)伊勢国、松阪の伊勢商人、三井高利が現在の日銀のそばに借りた間口が1間も無い店舗が、三井並びに三越の始まりです。名は呉服店、越後屋です。

治安3年(1683年)大火の後、室町に店舗を移設し、両替店を併設しました。

この両替店は今の三井住友銀行となっております。

その名前の三井と屋号をとって、明治37年(1904年)三越呉服店と改名しました。

この地、日本橋室町は丸の内の三菱地所、日本橋室町の三井不動産と言う位に、首都東京の開発ラッシュの目となり、その景観を変えて来ております。また東京では、デパートと言えば三越、と言うぐらい三越ブランドが幅を利かせております。

三越と伊勢丹は合併して、三越、伊勢丹ホールディングスとなり、唯一、売上一兆円を

超す百貨店グループとなっています。



(日本橋三越正面玄関)

しかし日本橋界隈に住んでいる人は三越以上に、高島屋のファンが多いようです。

アクセサリーや地下の食料品のバラエティーに富んだ品々や、気品に富んだ各種アクセサリーは圧倒的に高島屋のほうが豊富で、我々男性陣にとっても魅力的です。



(越後屋本店の模型)

6. 日本橋高島屋



(日本橋高島屋)

伊勢商人、飯田新七の養父が、滋賀県高島市の出身であった事から付けられたのが高島屋の由来であり、昭和7年(1932年)、当時東洋一と称せられた大阪高島屋本店に続き、昭和8年(1933年)に矢継ぎ早に東京に开店させたのが日本橋高島屋です。

昭和30年(1955年)、高島屋飯田の貿易部門が丸紅と合併して丸紅飯田となり、百貨店部門と完全に切り離されました。元々のルーツは、近江商人を起源としています。

7. 人形町

町人の町、人形町は江戸唯一の歓楽街として、中村座、市村座、の2座の歌舞伎が上演され、見世物小屋や、人形芝居小屋が建ち、数多くの人形師がいたところから人形町と呼ばれるようになりました。そしてその一角の葦の生い茂る湿地を埋め立て、徳川家康の亡き後、お藤元の駿府から5カ所の遊郭を元和3年(1617年)に人形町に移して吉原遊郭が作られたと言われています。



(人形町と浜町の境にある遊歩道の弁慶像)

その後明暦3年(1657年)の大火により市街化が進んでいた人形町から浅草の田んぼの中に吉原は移されました。これが今に至るまで元吉原と呼ばれる由縁で

す。

人形町のメインは何と言っても甘酒横丁で、営団地下鉄の日比谷線のA-1、A-2出口から浜町にある明治座までの通りです。



(水天宮通りの人形町)



(明治座)



(甘酒横丁)



(甘酒横丁にある弁当屋さんの関山)

A-2出口の側には親子丼で有名な玉ひでがあり、夜は主に接待で使わ

また明治座に行かれる方にお勧めなのは関山の弁当です。少し高めではありますが、その容器が小粋でお重箱や弁当箱につかえてとっても便利です。

れる、懐石料理も出す高級料亭です。

昼間は、親子丼だけのメニューですが、テレビ放送でよく取り上げられ、毎日長い行列が出来ています。



(行列が出来る親子丼の玉ひで)